

最新地質図発表会展示：数値地質図G-4 「日本の新生代火山岩の分布と産状」

鹿野 和彦¹⁾・巖谷 敏光¹⁾

1. はじめに

本稿では、平成13年度最新地質図発表会で展示した数値地質図G-4「日本の新生代火山岩の分布と産状」(平成12年9月20日発行)の展示内容を紹介します。この数値地質図は、鹿野和彦・山岸宏光・宇井忠英・小野晃司・巖谷敏光・宇都浩三・川辺禎久・曾屋龍典・中野 俊・星住英夫・山元孝広・湯浅真人が編集したものであるが、責任編集者の一人、鹿野とCD-ROM作成を担当した巖谷とが展示に当たったので、代表してこの2人がここに紹介記事を書くことにした。

2. 数値地質図の構成と展示内容

数値地質図G-4「日本の新生代火山岩の分布と産状」は、二枚のCD-ROM, G-4A「火山岩の分布」とG-4B「火山岩の産状」からなる。そのうち、G-4Aは、本来の数値地質図そのもので、新生代

火山岩の分布図をGISなどで表示するのに必要なデータファイルが収められている。

G-4BはG-4Aを補完するもので、一種の図鑑になっている。第四紀火山分布図とそれぞれの火山についての画像、活動様式、噴火記録、各地域ごとの代表的な火山岩の産状を示す画像、そして、それらを理解するための詳しい解説と辞書などのファイルが収められている。いずれもWebブラウザで見ることができ、火山岩の産状が理解できるよう相互に関連づけられているので、産状を理解した上で、分布のもつ意味づけを考えることができる。

展示に当たっては、数値地質図の構成と、パソコンで閲覧できるCD-ROMの内容をディスプレイから捕捉した画面とその説明とからなるポスターを貼りだして、その前に置いた机の上で、ノート型パソコン二台を使ってデモンストレーションするとともに、来訪者が直接操作して内容を確認することができるようにした。



第1図 数値地質図G-4「日本の新生代火山岩の分布と産状」の表紙。



第2図 G-4Bのタイトルページ出力画面。

3. 数値地質図の意味づけと評価

地質図を数値化して地理情報システム(GIS)の上で利用する動きが活発になっている。産総研地質調査総合センター(旧地質調査所)では、1995年に100万分の1日本地質図第3版の数値化を行い、その数値ファイルを出版した。それ以降、現在に至るまで、様々な数値地質図が作成・出版されてきた。しかし、その利用はGISが扱える専門家に限られている。数値地質図「日本の新生代火山岩の分布と産状」の出版は、従来通りGISが扱える専門家向けの地質図ベクトルデータファイル(G-4A)を提供するとともに、GISが扱えない人でも利用できるよう工夫したファイル(G-4B)をも提供しようという新しい試みである。

新生代火山岩の分布図とその解説とで構成される新しい様式で提供するG-4Bの作成は容易ではなく、4年の歳月と30人を越える研究者の協力を要した。その甲斐あって、火山学の権威、荒牧重雄東大名誉教授は「火山に少しでも興味を持つ、すべての地学愛好者にお勧めする。特に大学レベルの地学系の学生諸君に強くおすすめする。たくさんの写真を漠然と眺めることから始めても、この世界の

魅力に引き込まれてゆくことは間違いない。実は、地学系の先生・教員、さらに火山学が専門である大学教授のみなさんにも本気になっておすすめしたい」との書評を地質学の中心的学会である日本地質学News紙雑誌に寄せていることから分かるように、その評判は高い。

展示会場では、数値地質図と聞いて敬遠する向きもあったが、パソコンの前に座っていただいて、内容を説明しはじめると引き込まれる人もいて心強く思った。

様々工夫しても、なかなかとりつきにくいのが、パソコンである。が、いまやインターネットの利用が活発になってきている。Webブラウザはだれでも利用でき、使いやすい閲覧ソフトなので、数値地質図G-4「日本の新生代火山岩の分布と産状」が呼び水となって、Webブラウザを入りに地質図の利用が高まることを期待したい。

KANO Kazuhiko and IWAYA Toshimitsu (2002) : New geological map exhibition : Digital Geoscience Map G-4, Distribution and occurrence of Cenozoic volcanic rocks in Japan.

< 受付 : 2002年1月15日 >